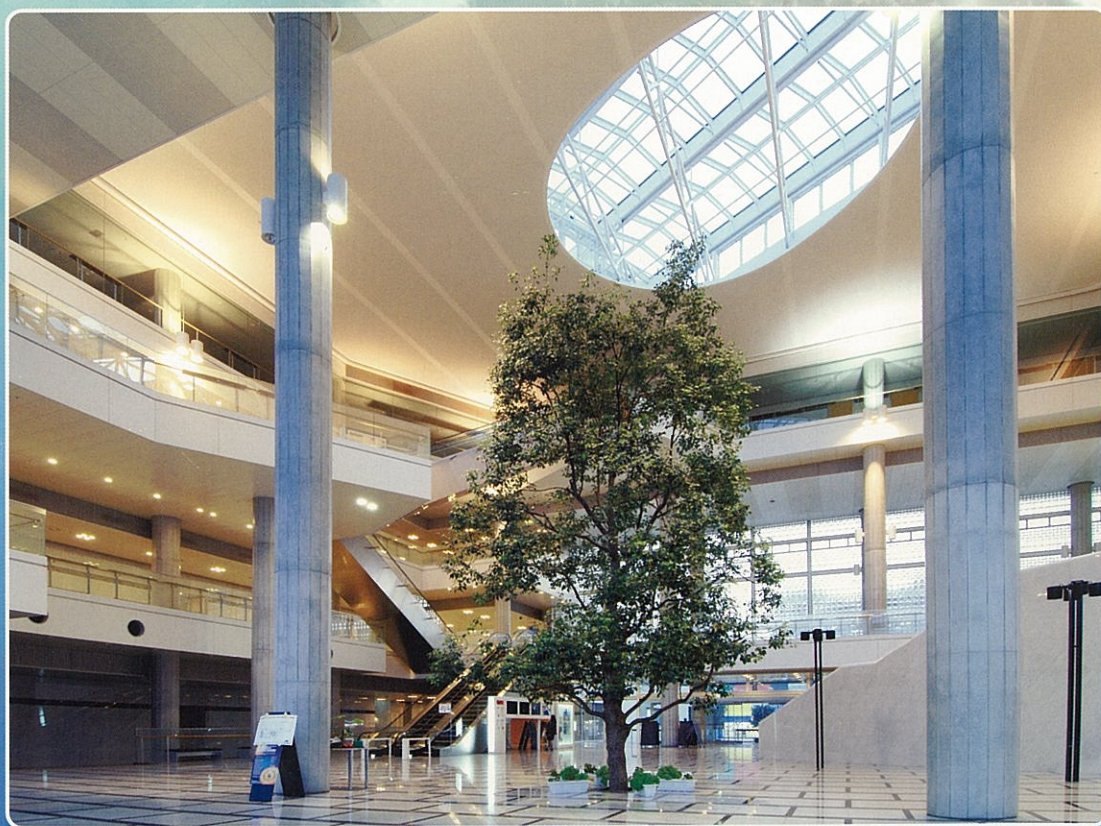


平成
22年度

大学病院 情報マネジメント部門 連絡会議

抄録集

Information *Intelligence*
インフォメーションからインテリジェンスへ
～情報の蓄積から共有・利活用に向けて～



会期 平成23年2月3日(木)・4日(金)

会場 つくば国際会議場 (茨城県つくば市)

大会長 大原 信 (筑波大学附属病院 医療情報部)

ご 挨拶

平成 22 年度 大学病院情報マネジメント部門連絡会議

大会長 大原 信

(筑波大学附属病院 医療情報部長 教授)

このたび「平成 22 年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議」を平成 23 年 2 月 3 日（木）、4 日（金）につくば国際会議場にて開催させていただくこととなりました。

平成 11 年 4 月に厚生省（当時）から「診療情報の電子保存について」の通達が出されてから 10 年余が経過し、多くの医療施設では「電子カルテ」や「オーダリングシステム」から診療情報を保存・蓄積し、活用するデータウェアハウスの構築がなされてまいりました。さらに平成 22 年 2 月に、「診療録等の保存を行う場所について」の通知が改正され、民間事業者での保存が認められ、医療情報の分野も本格的なクラウドコンピューティングの時代を迎えつつあります。

そこで、今回の会議では、「インフォメーションからインテリジェンスへ、情報の蓄積から共有・利活用に向けて」をメインテーマとして、今後の我々の主たる役割を、情報システムの維持管理や診療情報の保存から、情報の共有・利活用へ振り向けることについて、活発に議論・情報交換できればと思っております。

当連絡会議は、学会とは異なり、情報に携わる各部門、各職種の関係者が一同に会し、情報を共有し、情報ベンダーをも含めて率直な意見交換を行えることをモットーとしています。各セッションには分かれますが、多職種の方の積極的な交流を期待します。

また、今回の開催では、久々の関東地区での開催でありますので、国立大学病院のみならず、広く私立大学病院や 議論に参加して頂ける病院、関係者の方々へ積極的な参加を呼びかけさせていただきました。

つくば市は、建設以来 30 年、科学万博開催より 25 年が経過し、町並みが落ち着きを見せると共に、つくばエクスプレス開通以後、さらなる発展を続けております。このつくばで、我々の未来を描こうではありませんか。

全国の情報マネジメント部門に携わるの方々のご協力とご支援をよろしくお願い申し上げます。

平成21年度 大学病院情報マネジメント部門連絡会議 日程表

2月2日 (水)	オークラフロンティア ホテルつくば	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
	アネックス1F昂									幹事会	部長会	
	アネックス1F昂											懇親会

2月3日 (木)	つくば国際会議場	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
	A会場 2階大ホール		開 会 式	A-1 (10:00-11:30) テーマセッション	ランチョン1 GEヘルスケアジャパン		A-2 (13:00-15:30) 病院マネジメントセッション			A-3 (15:45-17:45) 看護セッション		
	B会場 2階中ホール200			B-1 (10:00-11:30) 薬剤セッション	ランチョン2 富士通		B-2 (13:00-14:30) クリニカルバスセッション	B-3 (14:30-16:00) 診療情報管理セッション		B-4 (16:00-17:30) 部長会セッション		
	C会場 3階中ホール300			C-1 (10:00-11:30) 医療安全セッション	ランチョン3 富士フイルムメディカル		C-2 (13:00-14:30) 病院情報システムセッション	情報交換会 NEC	情報交換会 富士通	情報交換会 東芝住電	情報交換会 日本IBM	
	D会場 1階大会議室102			D-1 (10:00-11:30) 歯科セッション			13:00-15:00 UMIN小委員会(薬剤)			16:30-17:30 診療情報管理士連絡会		
	E会場 小会議室405						13:00-14:30 UMIN小委員会(事務)	14:30-16:00 UMIN小委員会(幹事会)				
	P会場 1階多目的ホール		ポスター展示 (立会い17:50-18:20) 立会い									
			企業展示、無線LAN接続コーナー、休憩所、ドリンクサービス									
	1階エントランスホール											18:30- 懇親会
	1階大会議室101A		大会本部									
1階大会議室101B		クローク										
2階中会議室201A		ホスピタリティールーム (NEC)										
2階中会議室202A		ホスピタリティールーム (東芝住電医療情報システムズ)										
2階中会議室202B		ホスピタリティールーム (富士通)										

2月4日 (金)	つくば国際会議場	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
	A会場 2階大ホール		9:30-10:30 基調講演	10:30-12:00 総会・閉会式	UMIN 総会							
	P会場 1階多目的ホール		ポスター展示									
			企業展示、無線LAN接続コーナー、休憩所、ドリンクサービス									
	1階大会議室101A		大会本部									
	1階大会議室101B		クローク									
	2階中会議室201A		ホスピタリティールーム (NEC)									
	2階中会議室202A		ホスピタリティールーム (東芝住電医療情報システムズ)									
2階中会議室202B		ホスピタリティールーム (富士通)										
4階小会議室404					12:30-13:30 常置委員会							

プログラム

■ 基調講演

日 時：2月4日（金）9:30～10:30

会 場：A会場 大ホール

講 演：文部科学省 高等教育局医学教育課大学病院支援室 室長 玉上 晃
「大学附属病院における諸問題について」

■ A-1 テーマセッション

インフォメーションからインテリジェンスへ

～情報の蓄積から共有・利活用に向けて～

日 時：2月3日（木）10:00～11:30

会 場：A会場 大ホール

座 長：千葉大学医学部附属病院
昭和大学横浜市北部病院

鈴木 隆弘

小塚 和人

演 者：大阪大学医学部附属病院
京都大学医学部附属病院
北海道大学病院
帝京大学

松村 泰志

竹村 匡正

藤森 研司

澤 智博

病院情報システムは、医事会計システムからオーダーリングシステム、さらに診療情報を記録する電子カルテシステムに発展してきました。つまり情報伝達が主な目的であった病院情報システムが、実施情報や診療記録も包括するようになってきており、取り扱う情報量は格段に増えてきました。それらの情報は「伝える事」に止まらない共有、分析、評価などへの利活用が可能となってきており、それがまた医療現場にフィードバックされることが求められております。つまり病院情報システムが取り扱う対象が、データからインフォメーションへ成長し、さらにインテリジェンスへ発展するフェーズに入ってきたと思います。

本セッションでは大学病院での情報システムを管理運営されている方々に、病院情報システムのデータがインフォメーションに変化した要素は何だったのか、そしてインフォメーションがどのように医療現場に変化をもたらしたのか。さらにそのインフォメーションがインテリジェンスに成長する事の、必要条件、誰にとってのインテリジェンスか、医療者、医療機関、社会、そして患者自身などを含めて、今現在実現しているもの、試みられていること、これから期待されるもの、もしくは未だにデータのままであるもの、インフォメーションのままであるものを、どのように取り扱うことでさらに発展しうるのか、などを議論したいと思います。

■ A-2 病院マネジメントセッション

マネジメントを人の視点から考える

～個人から組織へ、それを動かす仕組み～

日 時：2月3日（木）13:00～15:30

会 場：A会場 大ホール

座 長：東京大学医学部附属病院
筑波大学附属病院

櫛山 博

坂口 広志

演 者：鳥取大学医学部附属病院
鳥取大学医学部附属病院
昭和大学横浜市北部病院
福井大学医学部附属病院
福井大学医学部附属病院
島根大学医学部

早川 幸子
安田 洋子
中村 武彦
國友 陵一
中村 智夫
津森登志子

平成 16 年の法人化以降、各大学では様々な経営改善を行ってきた。そのほとんどが、「金」・「物」に関する事である。今回のセッションでは、マネジメントを経営最大の資源である「人」の視点から捉える事とした。

全国国公私立大学病院から「人」に関する取り組みを募集し、4つの大学病院について発表をお願いした。前半は、これらの大学病院から取り組み事例についての発表、後半は、会場参加者とともにディスカッションを通して、大学病院における「人」について考えて行きたい。各大学独自の取り組み等の紹介や医療現場の声を聞く事により、今後の病院マネジメントに活かす事が期待出来る。病院事務職員だけではなく、多くの医療従事者に本セッションに参加いただきたい。

また、本セッションとは別に、「病院広報」をテーマとしたポスターセッションを1階大ホール前にて行う。病院広報に関する工夫、ホームページについて幅広く展示をしているので、ぜひご覧いただきたい。

■ A-3 看護セッション

チーム医療における看護記録の役割と課題

～情報を臨床知へとつなぐために～

日 時：2月3日（木）15：45～17：45

会 場：A会場 大ホール

座 長：昭和大学病院

筑波大学附属病院

演 者：千葉大学医学部附属病院

北海道大学病院

自治医科大学附属病院

東京大学医学部附属病院

福地本晴美

倉持 亨子

塚原 宣子

高橋久美子

大柴 幸子

毛利 王海

看護は「観察」から始まるといわれます。今日、カルテの電子化によって観察された多くのデータを可視化、客観化することが可能になりました。

しかし一方で医療の機能分化が進み、チーム医療の推進にあたってお互いの仕事を十分に理解し協同するための情報共有が課題となっています。

そこで、看護のセッションでは、チーム医療のさらなる推進のため、看護のデータを情報として解釈・構造化し、更に臨床知や科学的な知識を用いることの重要性和そのための記録のあり方について具体的に議論したいと考えます。

■ B-1 薬剤セッション

薬剤業務における医療情報システムの利活用

日時：2月3日（木）10：00～11：30

会場：B会場 2階中ホール 200

座長：筑波大学附属病院

幸田 幸直

演者：帝京大学医学部附属病院

細野 浩之

東京大学医学部附属病院

本多 秀俊

東北大学病院

久道 周彦

メインテーマである「インフォメーションからインテリジェンスへ、情報の蓄積から共有・利活用に向けて」をうけ、個性的な薬剤関連システムの紹介、また私立大学病院における医療情報システムの取り組みなどについて報告いただき、薬剤業務における医療情報システムの活用方法の方向性について意見交換を行ないます。

私立大学病院における取り組みとして、帝京大学病院で稼働中の病院医療情報システムについて紹介いただきます。また、個性的な薬剤関連システムとしては、東北大学病院薬剤部で開発中の抗がん剤鑑査システム、および東京大学医学部附属病院で開発中のQRコードを利用した院外処方箋の情報共有システムについて紹介いただきます。

■ B-2 クリニカルパスセッション

より良いクリニカルパスをめざして—電子化および地域連携パスの現状

日時：2月3日（木）13：00～14：30

会場：B会場 2階中ホール 200

座長：筑波大学大学院人間総合科学研究科

三島 初

演者：長崎大学病院

岡田みずほ

東京歯科大学市川総合病院

正木 史明

筑波メディカルセンター病院

上杉 雅文

筑波記念病院

池澤 和人

マッケンジー（1989）の古典的定義によれば、「クリティカルパスとは DRG が決めている入院期間内に標準的な結果を得るために患者に対して最も関わる医師・看護師が行うべき手順と時間のリスト」とある。すなわち、当初は医療経済的側面からの見方にすぎず、画一的な方法の当てはめと決めつけられて、できあいの医療「Cook Book Medicine」と非難されていた時代もある。

しかし、現在ではさまざまなメリットがあると言われる。すなわち、1. 医療の標準化からくる臨床効果、2. 在院日数短縮・経費節減などの経済効果、3. 職種間・患者とのコミュニケーションツール、4. 教育研修効果、5. リスクマネージメント、などである。

コスト効率を重視する一般病院では特に普及し活発な議論と工夫がされてきた。特に電子カルテ・オーダーリングの時代になり、パスのオーダーリングとの連携がとれるようになると、さらにそのメリットが際立ち、リスク管理の観点からもあらためて見直されてきているのではないだろうか。

今回のこのセッションでは、より良いクリニカルパスをめざしてという観点から、医療に関わる各部署の方々にお話しいただき、電子化やパス審査、地域との連携について議論していきたい。

■ B-3 診療情報管理セッション

質の高い精度管理と活かされる情報提供への挑戦

～日々蓄積されるデータを価値ある“情報”へ～

日時：2月3日（木）14：30～16：00

会場：B会場 2階中ホール 200

座長：和歌山県立医科大学
筑波大学附属病院

演者：九州大学病院
群馬大学医学部附属病院
昭和大学病院
大阪大学医学部附属病院

入江 真行
佐藤 真子
城 一世
佐藤 忍
鎌倉 由香
村田 泰三

近年、医療機関における電子カルテの導入やインフラの整備が進み、またデータベースの構築や連携が比較的容易になったことにより、診療情報に関する様々なデータが日々蓄積され活用されるようになった。その結果、診療情報管理を行う実務者へ求められるニーズも大きく変化し、医療機関が抱える膨大なデータの精度管理と情報の利活用の推進が強く求められている。

本セッションでは、がん登録、DPC、クリニカルインディケータ、DWH等と各分野で活躍する実務者から、診療情報管理士としての能力やITを最大限に活用しながら部門間の連携や調整、企画提案の段階から“活かされる情報”が提供されるまでのプロセスやその取り組みについて、事例を交えながら分かりやすく報告する。また価値ある情報を作り出す楽しさや醍醐味について実務者の目線で熱く語ってもらう。

ディスカッションでは、日々蓄積されるデータを用いて、病院経営者や管理者、患者や国民に対して価値ある情報を提供、発信していく為には、どのような点に重点を置くべきか、またどのような運用体制が必要なのか、各シンポジストがこれまで経験した多くの事例を参考にしながら、共通の課題や問題点を見出し、その対応策や改善方法について議論する。

今後、何十年と継続して管理を行う必要がある診療情報をより質の高い状態で管理し、価値ある情報提供を行うことを使命として、常に挑戦（試み）を行いながら診療情報をマネジメントできる診療情報管理者の将来像について考えたい。

（オーガナイザー：大阪大学医学部附属病院 長浜 宗敏）

■ B-4 部長会セッション

診療情報の二次利用：

患者データ提供のルール、方法、セキュリティ、管理責任について

日時：2月3日（木）16：00～17：30

会場：B会場 2階中ホール 200

座長：山口大学医学部附属病院
秋田大学医学部附属病院

演者：山口大学医学部附属病院
大阪大学医学部附属病院

井上 裕二
近藤 克幸
石田 博
松村 泰志

千葉大学医学部附属病院
浜松医科大学医学部附属病院

鈴木 隆弘
小林 利彦

電子カルテがほぼすべての国立大学病院に導入された今、診療情報の二次利用の環境整備は電子化された患者データを管理運営する部門にとって最も重要な課題です。本セッションでは、当該病院あるいは学部内での臨床研究・医学教育・専門医研修の為の二次利用、その中でもデータベースに精通しているわけでない普通の利用者のデータ利用に焦点をあて、診療情報の二次利用の課題を明らかにします。

診療業務としてのセキュリティ管理下にある患者データの扱いは病院長・医療情報部長の責任でルールは明確です。しかし、そのデータを臨床研究や教育、専門医研修のサマリーなどに活用するための個別対応となると情報技術の問題では済まず一筋縄ではいきません。それに加えて、診療科をまたがった横断検索も容易になっており、抽出された患者データの帰属と責任範囲という古くて新しい問題が続きます。

二次利用のために提供される患者データは、データベースを理解する power user や heavy user にはデータウェアハウスを使うことに問題ありませんが、プロジェクト研究を進める専門医グループやサマリーや手術記録を研修記録として使いたい医師やコメディカルにどのような形式でデータ提供するか、regular user への対応は容易ではありません。

診療情報の二次利用の環境整備に取り組んでおられる大学病院から苦勞の一端を紹介いただき、パネルディスカッションを通して、これからの取り組みを考えるきっかけにして頂きたいと願っています。

■ C-1 医療安全セッション

医療の質・安全向上のための情報活用

日 時：2月3日（木）10：00～11：30

会 場：C会場 3階中ホール 300

座 長：大阪大学医学部附属病院
筑波大学附属病院

中島 和江
本間 覚

演 者：滋慶医療科学大学院大学
聖路加国際病院

武田 裕
福井 次矢

大阪大学医学部附属病院
筑波大学附属病院

長浜 宗敏
本間 覚

医療の質と安全の向上に真に役立つ情報とは何か。膨大かつ多岐にわたる病院情報の中から、何をどのように抽出するか、情報の収集・蓄積と利用・活用というシステムをどのように構築して運用するのか、成果はどのように評価するのか、多くの方が悩んでいるのではないのでしょうか？

医療安全セッションでは、早くからこれらの課題に取り組み本邦において先導的な役割を果たされてきたお二人の先生に基調講演をお願いいたしました。

武田 裕先生には主として医療情報学の立場からクオリティ・インディケータの創設と活用の方法についてお話し戴きます。福井次矢先生には主として臨床医学の立場から、クオリティ・インディケータの創設と活用の方法などについてお話し戴きます。大阪大

学や筑波大学の現状についてもご紹介しつつ会場の皆さまと意見交換し、この課題に関する理解を深めます。

■ C-2 病院情報システムセッション

患者情報の信憑性を阻害する要因の検証に基づく

病院情報システムの再構築

日 時：2月3日（木）13：00～14：30

会 場：C会場 中ホール 300

座 長：広島大学病院

高知大学

演 者：岡山大学病院

高知大学

愛媛大学

広島大学病院

石川 澄

奥原 義保

合地 明

奥原 義保

木村 映善

津久間秀彦

大学病院は高水準の医療を通じて、新しい医療技術と教育を提供することを社会的使命としている。がん登録、感染症サーベイ、副作用モニタ、地域健康管理データのコーホート分析、データマイニングなどの情報処理による新たな知見獲得など、中長期レンジでの社会還元への期待も大きい。

わたし達は、患者のマネージメントに供し、直接的な利益還元を目的とした利用の仕方を一次利用、それらのデータが集積し、再び日常医療に還元すると共に、新たなknowledgeの創出に利用される仕方を二次利用と称してきた。

これらの多用な目的に対して、病院情報システムは満足できるチーム医療のツールとなっているか？ システム機能と構造の、何処が、患者安全や医療の質の確保を阻害し、特に「信憑性」(accountability)を阻害する要因となっているか？ そして、言うまでもなく患者情報を起点とする医療情報を活用できるか？ などについて討論を深めたい。

■ C-3～6 情報交換会

地域連携と大学病院

日 時：2月3日（木）14：30～17：30

会 場：C会場 3階中ホール 300

総司会：浜松医科大学医学部附属病院

木村 通男

【企画意図】

各種のプロジェクトがいろいろな地域ではじまっており、当然大学病院も中核的な役割を担うケースが多い。ここでは、それらについて各ベンダーごとに、準備や進捗状況を説明いただき、共通の問題について、認識を高めたい。

各社、各グループへ；

「貴グループのプロジェクトでは、臨床データの置き場所はどこか？

将来はどこであるべきか？」

「貴社のシステムは、外部からの情報をデータベースとして取り込めるか？その場合、どこからのものであるか明示的に示されるか？」

「貴社のシステムは、外部からの情報参照があった時、監査証跡が残るか？監査証跡や施設間ID管理、認証について、ヨーロッパの epSOS プロジェクト、アメリカの Meaningful Use など採用されている国際規格への準拠状況はどうか？」

「貴グループの場合、外からの情報について、技術的、臨床的責任の分岐点はどこか？」という質問を共通に行いたい。

C-3 情報交換会： NEC 14：30～15：15

座長：浜松医科大学
演者：浜松医科大学病院
「厚生労働省標準的医療情報交換事業 SS-MIX の現状」
NEC 医療ソリューション事業本部事業推進部

木村 通男
木村 通男
斉藤 直和

C-4 情報交換会： 富士通 15：15～16：00

座長：富山大学附属病院
演者：信州大学医学部附属病院
「信州大学医学部附属病院における地域医療連携の取組み」
富士通株式会社 ヘルスケアソリューション事業本部
「富士通における地域連携システムの取組み」

中川 肇
浜野 英明
園田 武治

C-5 情報交換会： 東芝住電医療情報システムズ 16：00～16：45

座長：島根大学医学部附属病院
演者：千葉大学医学部附属病院
「千葉県ITネットの概要」
東芝住電医療情報システムズ株式会社
「東芝住電医療情報システムズの地域医療連携の取組みについて」

花田 英輔
藤田 伸輔
青木 浩二

C-6 情報交換会： 日本IBM 16：45～17：30

座長：鳥取大学医学部附属病院
演者：鳥取大学医学部附属病院
「鳥取大学医学部附属病院における地域医療連携の取組み」
日本アイ・ビー・エム(株) 医療サービス
「IBMにおける地域医療連携の取組みについて」

近藤 博史
近藤 博史
鈴木 進

■ D-1 歯科セッション

院内・院外の組織で蓄積した歯科情報を病院としての集合知へ

— 医科・歯科の垣根を越えた医療体制 —

日時：2月3日(木) 10：00～11：30

会場：D会場 1階大会議室 102

座長：東北大学病院
 広島大学・矯正歯科森本
演者：大阪大学歯学部附属病院
 東北大学病院
 東北大学病院
 東北大学病院

笠原 紳
森本 徳明
小畑 充彦
笠原 紳
坂本 博
藤本 容子

現在の医療を取り巻く環境を鑑みると従来以上に正しい診療録の記載が求められている。一方で診療録の電子化はこの数年で急激に進んでおり、適切な診療録記載に際し、システムによる支援は今後ますます充実するものと考えられ、医科歯科連携には必要不可欠である。

最初のセッションは、診療録記載内容の精度を向上させることを目的として、診療録記載エラーのシステムのチェック、結果の分析、広報、エラーチェックルーチンへのフィードバックという一連の対応プロセスとその検証結果について、大阪大学の事例を報告する。

二つ目は2010年1月に医科・歯科の実質的に統合を行った東北大学病院における、カルテ番号の統一をはじめ、各部門系の運用方法やカルテ管理の運用、外部の病院や診療所との医療情報交換について紹介を行う。

2大学の取り組みを通じ、医科歯科の医療情報有機的連携について議論を深めたい。

■ 総会

日 時：2月4日（金） 10：30～12：00

会 場：A会場 大ホール

■ ポスター展示

日 時：2月3日（木）9：30～18：20 立合い17：50～18：20

2月4日（金）9：00～12：30

会 場：P会場 1階多目的ホール

■ ランチョンセミナー

ランチョンセミナー1：

共催：GEヘルスケア・ジャパン株式会社

日 時：2月3日（木）11：45～12：45

会 場：A会場 大ホール

座 長：南 学（筑波大学臨床医学系放射線医学）

演 者：高野 真澄（福島県立医科大学 感染制御・臨床検査医学講座）

「検査室から飛び出した循環器統合ネットワークシステム

～情報を医療チーム、そして患者と共有する～

森川 富昭（徳島大学病院 病院情報センター）

「Enterprise-PACS時代のベンダチェンジと大容量データ移行を考える」

ランチョンセミナー2：

共催：富士通株式会社

日 時：2月3日（木）11：45～12：45

会 場：B会場 2階中ホール 200

座 長：新井 孝志（富士通株式会社 中央支社ヘルスケア統括営業部 第二営業部）

演 者：渡辺 一郎（株式会社富士通研究所）

「子ぐま型ソーシャルロボット」

鎌田 徹（富士通株式会社ヘルスケアソリューション事業本部

ヘルスケア営業支援統括部）

「電子ペーパーを利用した外来患者案内ソリューション」

ランチョンセミナー3：大学病院における周術期医療マネジメントとその成果

共催：富士フイルムメディカル株式会社
ヤギー株式会社

日 時：2月3日（木）11：45～12：45

会 場：C会場 3階中ホール 300

座 長：岐阜大学大学院医学系研究科 医療情報学分野 教授

紀ノ定 保臣

演 者：岐阜大学病院 手術部 副部長

長瀬 清

■ 各種委員会

医療情報部長会・幹事会	2月2日（水）16：00～17：00	
	オークラフロンティアホテルつくば	アネックス1階昇
医療情報・企画関連部長会	2月2日（水）17：00～18：00	
	オークラフロンティアホテルつくば	アネックス1階昇
大学病院診療情報管理士連絡会	2月3日（木）16：30～17：30	1階大会議室 102
UMIN 小委員会（事務）	2月3日（木）13：00～14：30	4階小会議室 405
UMIN 小委員会（幹事会）	2月3日（木）14：30～16：00	4階小会議室 405
UMIN 小委員会（薬剤）	2月3日（木）13：00～15：00	1階大会議室 102
UMIN 総会	2月4日（金）12：00～12：30	A会場大ホール
常置委員会	2月4日（金）12：30～13：30	4階小会議室 404

【ご注意】「オークラフロンティアホテルつくば」は学会場とは別施設です。

（つくば駅下車徒歩2分）

■ 企業展示

日 時：2月3日（木）9：30～18：20

2月4日（金）9：00～12：00

会 場：1階多目的ホール

※同会場内にインターネットコーナーやドリンクコーナーを併設します

■ ホスピタリティールーム

日 時：2月3日（木）9：30～17：45

2月4日（金）9：00～12：30

NEC 中会議室 201A

東芝住電医療情報システムズ 中会議室 202A

富士通 中会議室 202B

抄録集 16 頁掲載の「C-1 医療安全セッション」概要について訂正がございます。
ここに、お詫び申し上げますとともに、訂正版を案内いたします。

■ C-1 医療安全セッション

医療の質・安全向上のための情報活用

日 時：2月3日（木）10：00～11：30

会 場：C会場 3階中ホール 300

座 長：大阪大学医学部附属病院
筑波大学附属病院

演 者：滋慶医療科学大学院大学
聖路加国際病院
大阪大学医学部附属病院
筑波大学附属病院

中島 和江
本間 覚
武田 裕
福井 次矢
長浜 宗敏
本間 覚

医療の質と安全の向上に役立つ情報とは何か。膨大な病院情報の中から、何をどのように抽出するか、情報の収集・蓄積と利用・活用というシステムをどのように構築して運用するのか、成果はどのように評価するのか、われわれがITをどう使いこなすかが問われています。

医療安全セッションでは、早くからこれらの課題に取り組み本邦において先導的な役割を果たされてきたお二人の先生に基調講演をお願いいたしました。

武田 裕先生には、主として医療情報学の立場から、診療プロセスのばらつき分析の必要性やドキュメント情報の活用についてお話し戴きます。

福井次矢先生には、主として臨床医学の立場から、クオリティ・インディケータの創設と活用の方法についてお話し戴きます。

大阪大学における診療情報管理士の医療の質・安全への関わりや、筑波大学における医療安全関連データの活用状況についてもご紹介しつつ、会場の皆さまと意見交換し、この課題に関する理解を深めます。